

Grand Design by Japan 仙台フォーラム参加レポート

高橋 敬子

TAKAHASHI, Noriko

1. 目的

8月26日から行われた「慶応義塾大学創立150年記念事業未来先導基金プログラム」による第4回仙台フォーラムに参加した。このプログラムはグローバル・ビジネス・フォーラムによる日本のグランド・デザイン策定を行う融合型実践教育であり、震災半年後の現場において、被害の状況、復興の現状、今後の課題を、現地の住民、勤労者、専門家、行政担当者、ビジネスマン等、多様な人々が集まり、講演、討議、懇談形式で共有し、今後の長期的課題解決を検討する。仙台フォーラムは、グランド・デザイン策定の融合型教育の2011東日本大震災危機対応フォーラムの一環として、現地の聞き取り調査、ならびに仙台での2日連続のシンポジウムを行ったものである。

東日本大震災から半年経過した多賀城市、石巻市両市の現状視察内容を中心に、このプログラムに参加した感想・意見を記述することをこのレポートの目的とする。

2. プログラムスケジュール

グランド・デザインプログラム責任者：慶応義塾大学大学院経営管理研究科 姉川知史教授

仙台フォーラムコーディネーター：東北学院大学教養学部地域構想学科 柳井雅也教授

日程：8月26日より8月28日（28日は不参加のため未記入）

場所：仙台市情報産業プラザセミナールーム

内容：バスによる被災地視察とシンポジウム

図1. 第1日目プログラム

8月26日：新宿よりチャーターバスにより0時に出発～早朝6時半に多賀城に到着



予定より大幅に早く到着したため、バスで被災地区を巡回（多賀城→仙台港→スポーツセンター→住宅地）



多賀城市役所にて市長面談・前総務部長より市の復興状況説明



多賀城視察プログラム（被災地区を写真照合しながらバスで視察）



七ヶ浜商工会会長からの聞き取り

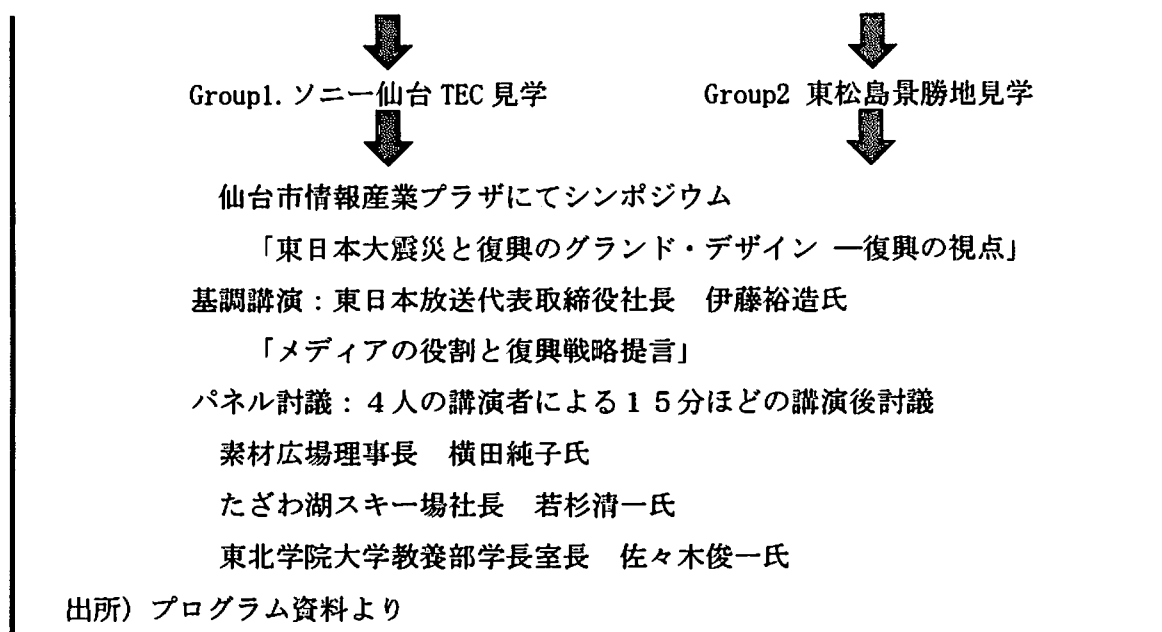
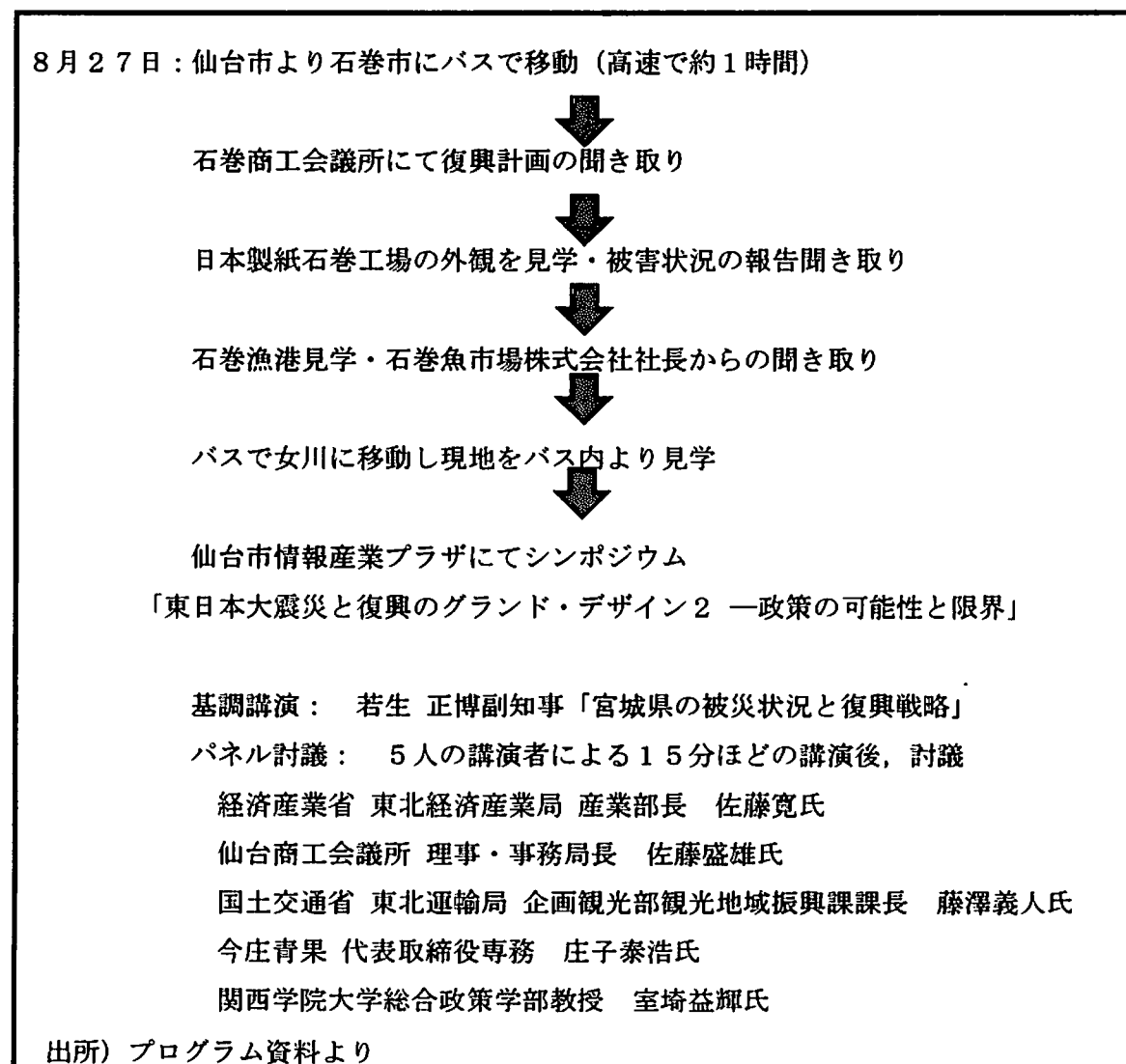


図2. 第2日目プログラム



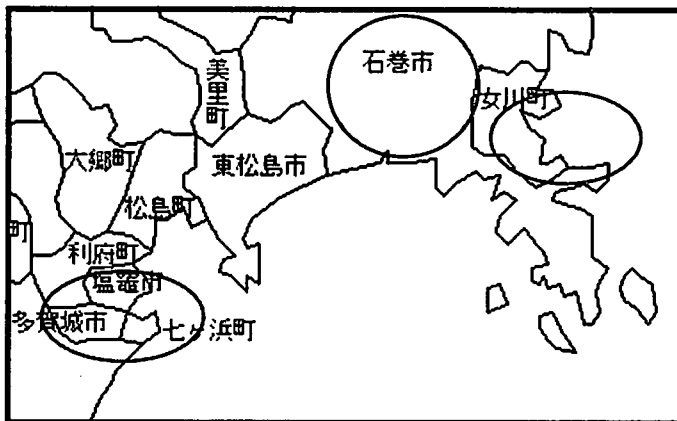
3. 視察報告

2日間の視察において最も大きなインパクトは「地域差」ということである。復興・復興に関して、地域差や意識・意欲差がみられ、課題もそれぞれ異なるということを感じた。その原因は①地理的要因②歴史的要因③産業構造の違い④人口構成の違い などがある。今回、宮城県仙台市に近接した多賀城市と石巻市両市を主に視察した結果だけだが、他の被災地域においても特有の課題があると想像できる。

国の復興計画や県の復興計画案が出されているが、大きく一つにくくっての課題解決は現実的ではなく、「市町村」や「地域」が住民と共にそれぞれの課題に取り組めるようなしくみ作りを考えるべきだと思う。

多賀城市、石巻市そして女川市の視察報告を示す。

図3. 視察マップ（丸は視察地域）



3.1 多賀城市視察報告

3.1.1 多賀城市役所

- ・仙台から車で30分、城址であり、仙台港を拠点とする工業地帯と歴史の町として栄えてきた。
- ・同じ城址である、大宰府、府中市、奈良市の強力な支援を受け、半年経過し復興のめどがたってきている。
- ・津波被害を被った海岸地域から見渡すと、まったく高台がみあたらなかった。
- ・貞観地震の史実にも多賀城の津波被害記録がある。
- ・津波は川の堤防でせきとめられ、川の南側と北側で被害が異なる、堤防の土壌工事が行われていた。
- ・発災当時は1万人以上の避難者があったが、現在は約60人になった。8月いっぱい避難所を閉鎖予定である。
- ・カナダ大使はじめ、友好都市との「えにし」を大切にという意向が強く感じられる。
- ・「津波ミュージアム」など教育施設を誘致する計画がある。企業が撤退した跡地が候補地

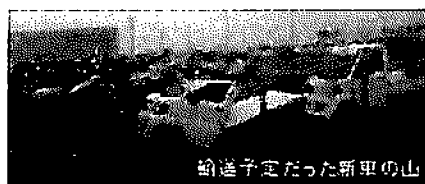
となっている。

3.1.2 多賀城社協復興支援センター

- ・ボランティアの方たちによるヘドロのかき出し作業を継続している。
- ・日中の作業は暑さが厳しいため、午前中が中心になる。
- ・水や塩分補給のための飴など支援物資をホームページに掲載中であった。
- ・社協はもともと高齢者や福祉事業を担当するところなので、人員不足が予想される。
- ・支援物資を問い合わせ、折り紙、クレヨン、子ども用の本と塩飴を持参した。
- ・これを機に継続的な支援や交流を相互で希望している。

3.1.3 セケ浜商工会

- ・海岸から3～4キロ地点でも膝上ぐらいの津波と瓦礫が流れてきた。
- ・発災時は寒かったので、濡れた人の暖が必要だった。
- ・対策本部設置や安否確認はとても大変だった。
- ・仙台港から新車を発送する場所だった。車の瓦礫は未処理である。
- ・発災後すぐに窃盗団により車やATMが荒らされた。セキュリティーシステムが停電で機能しなかったのが原因だそうだ。
- ・燃料の不足による復旧の遅れがあった。
- ・電気、水などのインフラ整備の遅れは、マンション高層階に住む住民を苦しめた。
- ・企業の売上は半減、資材の被害や借金を加えると膨大な経済被害がある。
- ・震災前は建設関係の景気は悪かったが、瓦礫処理の事業落札2400万。住宅の修繕のため、建築関係の需要は非常に高くなっている。(屋根瓦補修が多い)
- ・40号線を挟んで東側は工場地帯であるが、西側は城址のため開発ができなかった。
- ・塩害のため、米生産は3年ぐらいできない見込みである。
- ・中小企業は東南アジアとの価格競争のために、コストを下げる必要がある。現金の必要性あり。残債があるが、2重ローン問題浮上している。
- ・中小企業は今現在の現金がほしい。政府の決断スピードが肝心。
- ・ファンドが出されても、6パーセントの企業しかカバーできない。財政難が続く。
- ・廃業者が増えているが、借金がある業者は廃業ができない。
- ・ソニー仙台テクノロジーセンターは高圧電力が復活していないため、ラインはストップしている→雇用者は半減している→関連会社の撤退→近辺の飲食店もダメージを受けた。

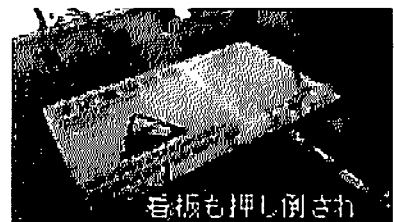


3.1.4 ソニー仙台テクノロジーセンター

- ・工場正面のフェンスと低木により、瓦礫の流れはせきとめられた。しかし、駐車場入り口部分からまわりこんで流れてきた。フェンスの補強を考えたい。
- ・発災時は高層階部分に対策本部を設けて、社員と数百人の市民が避難した。
- ・津波による実害も大きいが、生産ラインが停止したことによる経済的なダメージははかりしれない。
- ・社員の努力で清掃、製造装置復旧にこぎつけ、今月一部生産ラインはスタートしたが他部品の生産が停止状態、再開のめどはたっており、工場の移転を視野にしている。
- ・無線 LAN (Local Area Network) は 1 月ほどで復活し通信環境はもどったが、いたるところで瓦礫による建物被害がある。
- ・CSR に尽力し、地域の復旧、復興を助けたい。学校訪問科学授業、社協の資材管理など。
- ・スポーツ振興、サッカー JFL ソニー仙台は練習再開し、現在天皇杯 2 回戦進出した。
- ・工場建屋（クリーンルーム有）ベンチャー企業や大学研究所などに無償提供し、産業発展に寄与したい意向である。

3.1.5 新仙台港

- ・車が折り重なるように積まれている、そして一見宅地整備地の様に建物の土台だけをとどめた地域が延々と続いている。
- ・瓦礫はほとんどかたづけられている印象が強い。
- ・道路には信号機がない。鉄塔は無事だが電気の復旧は未である。
- ・スポーツ施設のオブジェやポールがなぎ倒されて、津波の勢いを物語っている。
- ・海から数メートルのところにあるコンクリートでできた家が残されている。生活の痕跡が見え、痛ましい。
- ・学校の体育館の窓が大きくこわれ、緞帳だけがたなびいている。



3.2 石巻市視察報告

3.2.1 石巻市商工会議所

- ・商業地域全体、シャッターが下りている店が目立つ。
- ・石ノ森章太郎にゆかりのあるところとして、彼の作品をモチーフに街づくりをしてきた。中心地のあちこちに、仮面ライダーのフィギュアが見られる。
- ・信号機が復活しておらず、いまだに人的手信号である。交通量はさほど多くないが、電気の復旧はかなり遅れている。



- ・日本製紙が工業の中心だが、津波被害を受けかなりの経済的ダメージがある。
- ・東北の中では冬は温暖で雪も降らない、夏は涼しい気候がおだやかな地域である。
- ・豊富な漁場として栄え、金華サバなどブランド魚として売り出している。
- ・今までは人口の移動がほとんど見られなかったが、今回の震災で1万人以上の人口流出がある。
- ・漁業と水産業の定義を知るべき、なぜなら加工業などが水産業の枠から外されて支援や補助金対象にならない場合があるから。
- ・石巻復興のため国の復興特区指定を希望している。
- ・漁場の地盤沈下が大きな問題。小規模エリアで漁が復活しているが、製氷工場の立ち上げが課題である。
- ・ヘドロが丘に上がったため海は大変きれいで、いい漁場、魚も豊富ということである。



3.2.2 日本製紙工場外観

- ・工場独特の配管からの騒音があると思ったが、すべて瓦礫を片付けるブルドーザーの音だった。まだまだ広い敷地内には瓦礫と思われるごみがたくさんあった。
- ・配管や煙突がかなり高い位置までさびついている。約20メートルの位置までさびついており、そこまで津波が押し寄せていたのだと思う。
- ・大変不思議なことにパルプの原料のチップの山は津波で流れなかったそうである。一片一片はとても軽いチップだが、山として盛られている状態への津波のエネルギーのかかり方の検証材料になるのかもしれない。
- ・3.11以前の紙の需要が落ち込んでいたので、操業が止まってもあまり影響が出なかった。現在もバランスは保っている状態である。今後の需給の見通しをたてるのが課題である。
- ・地盤沈下地帯の早期復旧を望む。
- ・高台に社宅があり、対策本部がおかれた。そこは無傷であり、今後もそこを拠点にして復旧を急ぎたい。



3.2.3 まとめ

石巻の場合、地震・津波の2次的被害として地盤沈下が起こっていることが復旧を遅らせる原因になっていると思った。人、お金、物資すべての面で不足していることは一目瞭然だった。国から産業経済復興特区に指定されることを強く要望している点は多いに納得する。しかし、人口流



出を差し止めていくことも長期的な計画には大切な視点だと思う。そのためには、地域住民集会やモデルになる街の研究などが不可欠なのではと思う。すばらしい漁場と温暖な気候風土、製紙業のイノベーション事業などをアピールした街の構想をしっかりと持ち、復興モデル都市を目指してほしいと思う。

3.3 女川市視察報告

- ・震源に最も近く、狭い範囲を高台に囲まれているせいか、ビルが横に倒れている。引き波の時のエネルギーで倒れたのだそうだ。この廃墟の風景は津波のすさまじさを見せつけるかのようだ。とても辛く悲しいできごとだが、遺構として残す計画も必要なのかもしれないと思う。



- ・女川原発の視察は不可だった。
- ・避難をめぐって、住民が孤立した土地だと説明を受けた。
- ・市の復興計画はホームページで確認した。
「防災」「住環境」「産業」の3つの柱を復興計画においている。防災の強化を明確にしている点が他2市とは異なると思う。

4. フォーラム課題考察

2日間にわたるシンポジウムでは、東日本大震災を経験された各界の方の講演を聞くことができた。メディア、大学、市民団体、企業それぞれの立場での復興への役割が示され大変有意義だったと思う。特に「教育」と「震災」の視点から印象に残ったこと、そしてこれからの課題についての意見を記す。

- ・復興計画の策定にあたり、東北を拠点とした大学の「コーディネーター」、「ファシリテーター」としての役割が増してきている。地域行政、あるいは国の機関そして民間企業とのつなぎ役は大学の大きな使命だと思う。
- ・このようなフォーラムは確かに重要であり、講演者の方の準備も大変な労力であったと思う。残念なのは、時間が足りないあるいは大人数での講演であるため、意見交換が十分にできない点である。パネルディスカッションも形式的に思えた。
- ・この震災がきっかけで、大学生を中心に若い世代の人たちがボランティアに多数参加している。そこで、人生観を見直したり、他者から見て成長が感じられたりしたことはプラスのできごとだったと思う。
- ・国の復興予算審議を早くしてもらうことは誰もが思うこと。財源のアイディアを出して

いくことも急いでやるべきだと思う。

- ・震災により激しい人口動態の変化が起こった。自治体による細かい分析が必要だが、台帳が流されたところがある。今後は住基ネットなどシステムを使うことを考慮するべきだと思う。
- ・発災から半年経過し、避難所を閉鎖するところが多い。仮設住宅で暮らすことがかならずしも幸せではないことをよく耳にした。これから東北はすぐに冬を迎える。最大限の想像力を持って、被災した方一人一人のケアへのアイディアを出さなければと思う。
- ・国や行政の復興スパンは10年ということになっている。つまり、被災した子どもたちが次世代のリーダーになっていかなければならない。彼らの経験は必ず将来に役立つと信じたいが、心の傷がどれほどかを感じる。カウンセラーや専門家を総動員して心のケアを継続的に行うべきだと思う。PTSDはこれから先に注意が必要だと思う。
- ・社会福祉協議会は本来福祉業務を担当する行政の部署であるが、震災後「復興支援センター」となって、まさに最前線で復旧活動をしている。また、ボランティアのコーディネーターとなって、各家庭の支援を中心に行っている。おそらく、本来の業務施行は困難なほど人手不足だと思う。他の市町村から応援業務が行えるよう特別業務体制、あるいは特別雇用養成を採用するべきだと思う。
- ・今回の津波は想定外であったこと、地震の揺れが強く長い時間続いたこと、現代の科学の力では本当に防ぐことができなかったのかを考えると悔しいことである。東京や他の大都市で同じような規模の震災が起こることを想定すること、そして防災のエキスパート（防災士）を各学校に配備すること、地域での防災訓練を真剣に施行すること、そのために学校が拠点となり機能するしくみを考える。
- ・日本のリソースを見直す。地球シミュレーター、深海探査、宇宙エネルギーの専門家などの異なる研究の立場から今回の震災を総合検証していくこと、そしてそれを世界に発信していくことを早急にやるべきだと思う。そのことによって、「防災・減災の日本」をアピールすることができると思う。
- ・東北大学における下水処理に特殊な藻を使った石油精製の研究、2010年 FIFA ワールドカップにソニーで開発されたガーナ北部の無電化村などにおいて、太陽電池、エネルギーサーバー、DC 駆動プロジェクターと衛星受信装置を組み合わせた、オープンエネルギーシステム。今後これらの先進的なエネルギー問題を解決するための研究推進をする。
- ・たくさんのボランティア団体やNPO、NGOなどが連携して活動できるように、復興支援のニーズを分析する機関を統合するとともに、メディアを使ってわかりやすく発信することが必要だと思う。
- ・企業にボランティア休暇を義務付けることによって期間的にまとまった支援参加ができるようにする。また、震災ボランティアに対して、助成金を拠出することも考慮する。
- ・被災地域学校行事（運動会や文化祭など）をサポートするチームを作る。

- ・避難所や仮設住宅などで、共同利用できる場所を必ず設置し、交流プログラムを提供する。住人に趣味、教授できること習いたいこと（例えば、絵画や語学など）をヒアリングし、住民同士で学びあう場を作っていく。
- ・アメリカ各地におけるハリケーンアイリーン¹の被害は膨大だったが、ツイッターなどの情報により、多くの住人が自主的に避難。それに反して日本の台風12号では避難勧告が出されずに土砂崩れなどで尊い命が犠牲になっている。またしても想定外という言葉聞き、悔しい思いである。しかし、これは遠方からの一刻を争う支援には情報通信が欠かせないことを示しているとも思う。情報リテラシーは高齢者にはハードルが高いと思うが、テレビ電話など遠方の人とのつながりが可能であることをじっくり伝えていくことは必要だと思う。目的があれば、年齢に関係なく通信機器を使用するきっかけになるのでは。
- ・防災を軸に小中高連携モデル地域を作る。最初の取り組みとしては、防災の備蓄品の見直しについて話し合う。（蓄電池やLPGなどの装備、様々なエネルギーや節電対策などについても討論する）またその後の展開として、英語教育、多文化共生教育、平和教育など多岐にわたる情報交流を行っていくことを目指す。

5. プロジェクトの展望

4で述べた様々な課題や気づきの中で、下線部に示したことは「教育」と「震災」を融合した課題だと思う。教育プロジェクトの目的の一つとなっている「被災地支援」や「学校支援」を考える上で、以下5つのプランを提案する。

1. 過去の避難所の事例を調査し比較検討する（三宅島、奥尻、阪神大震災など）
2. 東日本大震災現地避難所となっている学校と地域社協でヒアリングを実施していく
ヒアリング内容は、①子どもたちの様子、②防災への今後の取り組み、③現在あるいは今後の課題 などである
3. 東京都で選択した小・中・高校でのヒアリングを実施していく
ヒアリング内容は、①震災後の子どもたちの様子、②震災後に防災の改善をしたか、③新たな取り組みは、④東北の学校との交流はあるか などである
4. 子どもたちを継続的に支援していくため、被災地応援交流プログラムを考える（スポーツや音楽、映画など娯楽的な要素があるもの）
5. 被災地の人たち一人ひとりの話を聞くための相談員チームをつくる：
心理学や教育学などを専攻している大学生や大学院生またはリタイアした教員をスカウトする

謝辞

最後に、この仙台フォーラムにおいて、コーディネーターをつとめていただいた東北学院大学の柳井教授はじめ、復旧・復興のため日々尽力され大変お忙しい中、視察に協力をいただいた多賀城市と石巻市の地域みなさまに心からお見舞いを申し上げますとともに感謝を述べさせていただきたいと思います。また、慶應義塾大学大学院の姉川教授そしてマネジメントチームのみなさまにも大変お世話になり、最後の最後までプログラムの調整そして個人的な要望を聞いていただき本当に感謝しております。この場をお借りして御礼を述べさせていただきたいと思います。

[Reference]

アイリーンの被害状況 <http://www.cnn.co.jp/usa/30003817.html>

女川の復興計画

http://www.town.onagawa.miyagi.jp/hukkou/pdf/news/news_02_20110511.pdf

女川の被害 <http://www.youtube.com/watch?v=ZGcyAHExZzs>

Grand Design by Japan 仙台フォーラムプログラム

宮城県アクセスマップ <http://www.8toch.net/gappei/map.cgi?pref=04>